

**がんばっている人にがんばれというのは間違っている、  
という人もいるが、そんなことを考える前に、がんばれ  
って言葉は飛び出してしまうものなのだ。**

朝井リョウ『チア男子』

柔道の道場主の長男・晴希は大学1年生。姉や幼馴染の一馬と共に、幼い頃から柔道に打ち込んできた。しかし、無敗の姉と比べて自分の限界を察していた晴希は、怪我をきっかけに柔道部を退部。同じころ、一馬もまた柔道をやめる。一馬はある理由から、大学チアリーディング界初の男子のみのチーム結成を決意したのだ。それぞれに事情を抱える超個性的なメンバーが集まり、チームは学園祭での初舞台、さらには全国選手権を目指す……。 (『BOOK』データベースから転載)

先日、PTA 主催外部講師講演会で My's による Talk & Live を開催しましたが、どうでしたか？ ポーカルの白岩さんとベースを担当した（本来はギター）武田さんが僕の教え子ということで、気を遣ってトークの中で僕をいじってくれました（笑）。

今回のテーマは「夢のかなえかたは一つじゃない」でした。白岩さんと上村さんの二人が音楽の夢を諦めきれず挑戦したのが 20 代。そして、みんなそれぞれ仕事をしながら「スローライフミュージック」を体現している生き方が本当に素敵です。

かたや僕は 10 代、20 代の頃どうだったかという、「夢」ということを口にするのは気が引けていました。そんなのできるわけがないと思っていたからです。

俵万智さんの歌に次のようなものがあります。

可能性という語の嘘を知っている十七歳のめんどくささ

俵さんは 3 年間、高校の国語教師でした。教壇に立ったことのある彼女ならではの実感の歌です。高校時代の僕もまさしくこんな感じだったのだと思います。「できるわけない」が先なのです。若さは時に性急さを伴います。そして、その実現に最短のルートを取りたがり、一途であるが故に自分のやりたいことと職業を一致しなくてはならないと考えがちです。でも富士山への登頂に色んなルートがあるように、夢のかなえ方は決して一つではないのです。自分の好きなこと、やりたいことをしっかりと見つけてそれをずっと大事にしていってほしいと切に思います。

僕が白岩さんにリクエストした「道標」の歌詞にはこんな一節があります。

ぼくがこの目で見てきた夢のかけらはそう今でも 一つ一つ光り放ちながら広い大地の上の道標  
君がどんなにずっと遠くへ離れていても それは決して消える事のない明日を信じる一筋の光 命の光

夢を諦めることなく力強く一歩踏み出してほしい。そんな思いが詰まったのがアンコール曲「ガンバレ」だったように思います。みんなで声を揃えた「ガンバレ」は何より私たち自身へのエールになりました。My's のメンバーたちは、最後みんなで盛り上がりとても嬉しかったと言っていました。そして、かくいう僕もステージ前の中央に陣取り、年甲斐もなくジャンプしながら「ガンバレ」を連呼したことは、多分一生忘れられない一コマになるような気がします。

最近「ガンバレ」という言葉は無責任に発してはいけないという風潮があるように思います。「私はこんなに頑張っているのに、まだ頑張れと言うのか」と。でもそうはいつでも、素直に心から応援する言葉でもあるのです。朝井リョウさんの『チア男子』の中にこんな一文があります。

がんばっている人にがんばれというのは間違っている、という人もいるが、そんなことを考える前に、  
がんばれって言葉は飛び出してしまうものなのだ。

そう、その通り。純粋に飛び出してしまうものなのです。だからみんなに、特にこれから受験に立ち向かう 3 年次生に向かって声を大にして言わせてもらいたい。ガンバレ!!

